

内野・五十嵐まち協だより

第11号

発行 内野・五十嵐まちづくり協議会 発行日 令和元年12月

内野まちづくりセンター開所3周年記念「うちのDE月見酒2019」(新潟西商工会青年部=11/10)



「鶴の友」「越の関」などの定番酒から、他ではなかなか呑めない珍しいお酒まで、内野の2つの酒蔵(樋木酒造・塩川酒造)のお酒を試飲するイベント。今年は新企画として「利き酒大会」も行われました。予定していた150人を上回る参加者に、青年部長の古田



島由紀子さんは「年々参加者も増え、今年も大にぎわいでした。内野をどんどん元気にしていく起爆剤にしていきたいですね」と語っていました。(新潟市補助事業)

「うちのDE月見酒2019」と「新川音楽祭」

～お酒と音楽に酔いしれた～

「うちの文化ウィーク2019」と銘打って、内野まちづくりセンターを会場に2週続きのイベントが行われました。内野エリア以外からも大勢の参加者が来場、お酒と音楽で盛り上がりました。

「新川開さく200年祭」へのステップ「うちの新川音楽祭」(内野まちづくりセンター自主事業=11/16)

8年前の静田神社のミニ音楽祭からスタートし、内野まちづくりセンターでは2回目。長島流新潟樽砵伝承会、内野小学校ブラスバンド部、新潟西高校吹奏楽部、西内野コミ協吹奏楽団による力強い演奏。内野うたごえの和合唱団のコーラス、越後ごぜ唄さずきもんによるごぜ唄、内野盆踊りの会とにぎやかな演奏で盛り上がりました。

「来年の新川開さく200年祭も音楽で盛り上げます」(越後新川まちおこしの会・小泉勇事務局長)



ごぜ唄



太鼓、笛、音頭、踊りで盛り上がる 内野盆踊り大会

盆が来たてがね、
ナスの皮のぞうせ(雑炊)らイエー
オジが腹立ってナベ投げたイエー

独特の節回しとリズム、奔放な(型にはまらない)踊りで演じられる内野の盆踊り。今年も7月27日に、内野大神宮(上社)境内で開催されました。事前に内野小学校や内野中学校へ講習に行き、内野まちづくりセンターでも地域の人や新大の学生(留学生も!)を集めて講習会を行い、約300人の参加者で盛り上がりました。(新潟市補助事業)



「内野 2019 新川ほたる」 内野を代表するイベントに

お盆の期間中に新川を彩るイルミネーション「新川ほたる」。今年も8月10日～17日まで開催され、すっかり内野の夏のイベントとして定着しました。水路橋から大萩橋の間(約200m)と対岸(60m)とで作られる水面に数十本のワイヤを張り、数万戸のLED電球を明滅させ、「ほたるの光」を演出するというもの。

今年は「アルツハイマー・ブラスバンド」の演奏が花を添え、台風襲来にもかかわらず、約1万2千人の観客でにぎわいました。10月5日～12日には内野まちづくりセンター1階の展示ホールで写真展も行われました。(新潟市補助事業)



内野の原風景、 日本海サーファーの躍動美 佐々木進さんの写真展

佐々木進さん(67)は五十嵐三の町に住む写真家。「星空のシーサイドライン。五十嵐浜サーファー」と銘打って、地元で初めての写真展が行われました(9月24日～10月3日、内野まちづくりセンター1階展示ホール)。四ツ郷屋浜や五十嵐浜で躍動するサーファーたちを追った写真や内野の風景など、プロの写真家ならではのアングルとリアル感があふれる写真展でした。(内野まちづくりセンター自主事業)



うちのは アートだ!!

まちづくりセンター
事業報告

次のような事業も行われました

- うちのDEビアガーデン2019(7月27日)
 - 夏休み子ども劇場(8月6日)
 - 懐かしの昭和のキネマ鑑賞会(8月23日)
 - 内野まつりカラオケ大会(9月15日)
 - 佐々木 呼雲 展(10月19日～10月27日)
 - 猪爪 彦一 展(11月7日～11月17日)
 - 利用団体代表者会議(11月9日)
- ※ ● 内野まちづくりセンター自主事業
● 新潟市補助事業

ちょっと おじゃまします

教訓に学び、忘れず、 自分なりの準備を



周藤 賢治さん(75)

新潟大学名誉教授 五十嵐二の町自治会長

災害はいつ起こっても不思議じゃない

……5月のまち協の総会で、内野エリアの防災について提言をお聞きしました。今年も豪雨や台風の被害が続きました。防災で大切なことは何ですか？

教訓に学び、忘れず、日頃から準備をしておくこと。例えば、東日本大震災の津波で児童と教職員84人が犠牲となった石巻市の大川小学校。裏山へ逃げるか校庭にとどまるか、学校の安全管理責任が問われました。あれはどのような事故だったのか。もし知らなかったのなら、皆さんで十分に考えていただきたいということです。

私は30年間、五十嵐二の町に住んでいます。自然が豊かで住みやすいところですが、専門家の目で見ると問題がないわけではない。実際に、1833年(176年前)には内野に津波が来ているんですからね。

……内野エリアでもハザードマップが配布されています。しかし、じっくり眺めて町や家がどういう状況にあるのか、考えたことはなかったですね。

このハザードマップを見てください(古いものから何種類か見せられる)。大雨が降ると、二の町にも内野の駅前にも冠水してしまう地域がある。「土砂災害特別警戒区域」もある。新川沿いには、津波が来ると危険地域となる地点もあります。角田山の南東麓には断層が分布しており、いつ地震が起きてもおかしくない状況なんです。

五十嵐二の町のハザードマップを作った

五十嵐二の町の自治会長になり、いざというときに指示を出す立場になったと自覚し、改めてハザード

マップを見て、びっくりしました。二の町の避難場所は新潟大学(正確には第一体育館)となっていますが、構内にはたくさんの建物があり、広すぎて、どれが第一体育館かマップを見ただけではわからない。どの道をたどって避難所に行けばいいかルートも示されていない。これでは逃げられません。

そこで、二の町だけのハザードマップを作り、全戸に配りました。ハザードマップは、古いものはダメ。町の環境や状況が変わったら新しく作り変えねばならない。さらに、マップに示された道筋に従って一度、避難所まで足を運んでみる必要がある。そうでないと、いざというときに逃げられない。

10月13日に、自治会は防災訓練をしようということで、新潟大学の避難所まで行ってみることにしたんです。ところがその日、台風19号が来て中止。笑い話にもなりませんよ(苦笑)。

避難場所、ルートの確認を怠りなく

……内野で暮らす私たちは、どのような心がけで、どのような準備をしたらよいのでしょうか。

それぞれの立場で、勉強して準備をしておくこと。保育園、幼稚園、小学校の避難訓練は当前ですが、中学生には防災についてしっかりした教育が必要です。

例えば、新潟地震(1964年)、秋田沖地震(1983年)、奥尻島地震(1993年)など、少なくとも日本海側の地震はどのようなメカニズムで起こり、太平洋側で起こる地震とどのように違うのか。内野を襲う地震や津波が起きたときはどうしたらいいのか学習する。行政も学校も、ぜひ対応していただきたいですね。

海で大きな地震が発生すれば、必ず津波が来ます。同じ内野町でもそれぞれの地域によって立地条件が違うのですから、ご自分の住んでいる地域がどんな状況にあるのか、地震や津波に襲われたらどこへ逃げたらいいのか、避難場所を確認し、リュックの中身や備蓄品を点検し、ふだんから家族で話し合っておくことが大切です(於：五十嵐二の町自治会館)。

周藤さんが作った五十嵐二の町のハザードマップ。避難場所である新潟大学第一体育館と備蓄倉庫の場所、そこへのルートが示されている。



周藤 賢治(専門は火成岩岩石学)

1944年、群馬県太田市生まれ。東京教育大学～81年に新潟大学理学部助手。89年から五十嵐二の町に住み、理学部教授、理学部長を経て2010年に退職。

内野といえは新川～新川開さく200年祭に向けて

新川と内野のなりたちを知っていますか？

内野を流れる新川は、江戸末期に開削された人工の川。内野は新川開さくがきっかけでできたまちです。開さく200年目を迎えるに当たり、改めて新川開さくと内野のまちの成り立ちをたどってみます。

蒲原平野は低湿地が多く、人々は長い間、水との闘いに明け暮れてきました。農地に貯まる「悪水」を海に流すため、長岡藩や江戸幕府に「川を掘らせてほしい」と嘆願しましたが聞き入れられず、庄屋衆が集まって自分たちで掘ることにしました。そのリーダーが中野小屋村の伊藤五郎左衛門でした。

工事は、西川の下に木製のトンネルを埋めて水を流す江戸時代最大級の土木プロジェクト(底樋)。工事の様を江戸の戯作者十返舎一九が、「滑稽旅加羅寿」で「多くの見物人を集める新川工事」と紹介しています。工事は6万両と延べ200万人を費やして文政3(1820)年に完成しました。しかし、借金がかさんで五郎左衛門は破産。一家は散り散りになってしまいました。

不思議なエネルギーに満ちていたまち

その後も改修や補助工事が続いたので、多様な価値観を持った大勢の人たちが入り込み、大いににぎわいました。こんな小さなまちに料亭が7軒もあり、造り酒屋が4軒あったというのも新川のたまものでしょう(いま酒蔵は2軒)。

1番町～7番町までの旧町内には昔の面影が残っています。「内野の今昔」によると、かつての五番町(こんびらまち)や六番町の町筋には仏壇や、畳や、石や、桶や、床や、屋根葺き、染め物や、料理や、あんまや、女髪結い、大工、左官や、馬車や、建具や、表具や、綿打ちや、豆腐や、かざりやなどが軒を並べ、芝居小屋が2軒もあったとか。ずいぶん面白い町だったようです。

内野で疎開生活を送った国民栄誉賞の作曲家・遠藤実さんは、「内野は歌づくりの原点だ」と語っていたそうです。砂山から海を眺めているとメロディが浮かび、後に曲の中に結実したとか。内野出身の芥川賞作家・藤沢周さんも、「新川が小説の原点になった」と語っています。内野は想像力を後押しする力を持っているのでしょうか。



1913年完成のレンガ×鉄筋コンクリート製の9門暗闇(あんこう)。トンネル部分は高さ3m、長さ67m。底樋に比べ、排水能力は飛躍的に向上した。



1955年に完成した新川・西川立体交差。新川が流れ、水路橋の上を西川が流れる。

内野は1960年に新潟市と合併。70年代の新潟大学の移転とともに宅地開発が進み、松林やスイカ畑、田んぼが住宅地に姿を変え、今日に至ります。全国で少子高齢化が進み、新潟市もいまの80万人が2040年には67万人に減るとか。しかし、内野エリアでは人口減少はないとのこと。いまの小中学生たちが大人になり、家庭を持って世の中と格闘する2040年頃、内野はどんなまちになっているのでしょうか。

編集後記に代えて

ネットの威力 まざまさ

200年前に一家離散の憂き目に遭った五郎左衛門一族はどこへ行ったのか。そんなことを考えていたら、横浜の伊藤重行さん(76)から「私は五郎左衛門の子孫」とい

うメールが来ました。伊藤さんは松蔭大学大学院の教授。新川や五郎左衛門について書いた私のブログを読んだとのことでした。

伊藤一族の一部の人々は大正期に北海道に渡り、重行さん一家は九州を経て横浜に落ち着いたそうです。弟の順一さんは北海道で全

国ベスト50に入る牛1000頭のメガファームを運営しているそうです。内野を離れた五郎左衛門の子孫と200年後に遭遇するとは。「ネットの時代のネットの威力」を痛感させられました。(内野・五十嵐まちづくり協議会 文化スポーツ部 まち協だより編集:古俣慎吾)

※この広報誌「内野・五十嵐まち協だより」は「新潟市補助事業」を利用して発行しています。